

サムエルが歩んだ契約の旅

こんにちは。私はイスラエル最後の士師サムエルです。サウル王とダビデ王を立てたので、人は私のことを「キングメーカー」と呼びます。え？ダビデの話は聞いたことがあるけれど、私のことは知らないって？きょうは、ダビデもよく知る私のことを話します。よく聞いてくださいね。



01. ハンナが契約として握った

ナジル人とはなんですか (1サム1:11)



サムエルの母ハンナは、息子を産むことができなくて涙を流して祈っていたとき、神様の必要はナジル人である子どもだと悟ったのです。ナジル人というのは、神様に献身するため、特別に約束をした人のことです。サムエルの場合は、生まれた瞬間から神様にささげられた人でした。期間を定めてナジル人として生きた人もいます。注意すべき点として、彼らは特定の食べ物を避け、飲酒を絶対に行わず、献身のしるしとして、髪の毛を切りませんでした。代表的なナジル人だったサムソンは髪の毛を切らなかったことを知っているでしょう。

02. ペリシテはどんな偶像をおがんでいましたか

サムエルが生きていた時代、ペリシテとの戦争が最も大きなわざわいだったと言えるでしょう。さらに大きな問題は、ペリシテの偶像をイスラエルの人々も一緒におがんでいたことです。祭司エリは、神様の御声を聞くことができず、彼の息子であるホフニとピネハスは、いつも悪いことばかりをしていました。そのとき、ペリシテがダゴンの神の名前で攻撃しました。ペリシテは、なぜそのようにしたのでしょうか。ペリシテの偶像として代表的なものはパアル、アシェラ、ダゴンです。中でも、ペリシテはダゴンをもっとも崇拜する国でした。ペリシテは海辺の国だったので、ダゴンはしばしば、上半身は人、下半身は魚のからだを持つ半魚人として描かれました。当時の人たちは、ダゴンが漁と穀物の豊かさをもたらすと考えていました。このダゴンが自分たちを守ると信じて、ダゴンの名前の下で戦争をしたのです。



03. 契約の箱はなぜ奪われたのでしょうか

サムエルは幼い時から、契約の箱のそばで成長しました。契約の箱は、サムエルにとって特別なものでした。ところが、その契約の箱が奪われる事件が起きました。ダゴンの名前の下で戦うペリシテを見たホフニとピネハスは、エベン・エゼル地域での戦いに契約の箱を持ってきました。



ところが戦いに勝つどころか、そこで契約の箱は奪われて、ホフニとピネハスは死んでしまいました。さらに、その知らせを聞いた祭司エリも死んでしまいました。そこで、サムエルがイスラエルの士師と預言者の役割を担うようになったのです。

私たちの生活に適用しよう！



1. 契約の箱を奪われたあと、契約の箱が通る所すべてで事件が起きました。上の地図の事件のあった場所に、事件番号を書き込みましょう。
 - ①ダゴンの神像が倒れてめちやめちやになった場所 (1サム5:1~5)
 - ②神様がなされたことをテストするために、牛2頭で契約の箱を移動させた場所 (1サム6:9~12)
 - ③人々に腫物ができた場所 (1サム5:6~7)
 - ④ダビデが運びだす時まで、約70年間契約の箱を置いていた場所 (1サム7:1~2)
 - ⑤非常に大恐慌と人々に腫物ができた場所 (1サム5:8~9)
 - ⑥契約の箱の中を見てしまったので、70人が死んだ場所 (1サム6:19)
 - ⑦町中に死の恐慌があり、人々に腫物で打たれた場所 (1サム5:10~12)
2. 契約の箱が通った道を一で示しましょう (出発はシロ)
ヒント: 1サムエル5~7章
3. サムエルのミツパ運動は偶像をすべて取り除き、神様に悔い改めた祈り運動でした。私を取り除くべき偶像をすべて書いてみましょう。

3か

サムエルを通してミツパ運動が 起きました

I サム 7:1~15 そのころ、サムエルはイスラエルの全家に次のように言った。「もし、あなたがたが心を尽くして主に帰り、あなたがたの間から外国の神々やアシュタロテを取り除き、心を主に向け、主にのみ仕えるなら、主はあなたがたをペリシテ人の手から救い出されます。」そこでイスラエル人は、バルやアシュタロテを取り除き、主にのみ仕えた。それで、サムエルは言った。「イスラエル人をみな、ミツパに集めなさい。私はあなたがたのために主に祈りましょう。」彼らはミツパに集まり、水を汲んで主の前に注ぎ、その日は断食した。そうして、その所で言った。「私たちは主に對して罪を犯しました。」こうしてサムエルはミツパでイスラエル人をさばいた。(3~6)

1. 強大国ペリシテがイスラエルに侵略してきました

- サムエルのことばが全イスラエルに行き渡ったときでした (4:1)
- ペリシテがエベン・エゼルに陣を敷きました (4:2)
- 祭司エリの家族が主なる神様の預言どおり死にました (4:12~22)

2. ペリシテの人々に契約の箱を奪われました

- ペリシテの人々は契約の箱を奪ってアシュドデに持っていきました (5:1)
- アシュドデにあったダゴンの宮に契約の箱を置きました (5:2)
- 主なる神様はアシュドデの全地域を腫物で打たれました
彼らはガテに契約の箱を移しました (5:8)
- ガテの町に主の御手が下り、非常な大恐慌が起きました。
彼らはエクロンに契約の箱を移しました (5:10)
- ペリシテの宗教指導者たちは、償いをつけて契約の箱をイスラエル地域に戻しました (6:1~18)

3. サムエルがイスラエルを治めたとき、ミツパ運動が起きました

- サムエルがイスラエルの全家族に「偶像を捨てなさい」と言いました (7:3)
- サムエルはイスラエルにミツパに集まるように言い、彼らのために主に祈ると言いました (7:5)
- サムエルが全焼のいけにえをささげる間に、ペリシテとの戦争に勝利して、エベン・エゼルという名をつけました (7:6~17)



* 助けの石という意味を持つエベン・エゼルは「ここまで主が私たちを助けてくださった」という意味で立てられた石です。

せいじつ
聖日みことばのタイトル

せいじつせいしょかしょ
聖日聖書箇所



れいはい じゆんび
礼拝の準備をして礼拝をささげ
みことばを私の生活に適用する
ことまで、すべてが礼拝です

れいはい じゆんび
礼拝の準備のチェック

- 聖書
- 献金
- 筆記用具
- <子どもの祈りの手帳>
- 週報を読む

いっしゅうかんに
一週間握るみことば

Grid area for writing the weekly devotionals.

